

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 26 日現在

機関番号：23302

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26870484

研究課題名(和文) ソーシャルキャピタルの地域特性を踏まえた子育て支援の検討

研究課題名(英文) Investigation of child-rearing support measures based on regional characteristics of social capital

研究代表者

金子 紀子 (Kaneko, Noriko)

石川県立看護大学・看護学部・助教

研究者番号：30438171

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：子育て中の母親の子育て観や子育て状況と地域のソーシャルキャピタルとの関係を探し、地域特性を踏まえた子育て支援の方策を検討することを目的とした。ソーシャルキャピタルの差が予想される国内3地域での無記名自記式質問紙調査の結果、ソーシャルキャピタルの高い地域では、母親の子育ての肯定的感情は信頼と地縁組織の参加が有意に関連していたが、低い地域では、ソーシャルキャピタルのどの項目とも有意な関連はなかった。地域のソーシャルキャピタルの高低により子育ての支援方法が異なる可能性が示唆された。

研究成果の概要(英文)：The purpose of our study was to investigate relationship between the mothers' child-rearing concept and neighborhood social capital taking into account the mothers' child-rearing environment, and then to investigate adequate child-rearing support measures in view of regional characteristics. Self-recording anonymous questionnaire survey was conducted for mothers rearing infants in three regions in Japan, where degree of social capital was considered different. The results showed that in regions with high neighborhood social capital, positive child-rearing feeling of the mothers was significantly related with the neighborhood trust and occasions to participate in local community activities; however, in regions with low neighborhood social capital, no significant relation was found in any items of social capital. It is suggested that child-rearing support measures by specialists need to be adjusted for mothers in each region, depending on the degree of neighborhood social capital.

研究分野：地域看護学

キーワード：地域特性 子育て支援 ソーシャルキャピタル

1. 研究開始当初の背景

後を絶たない児童虐待は深刻な社会問題である。この解決のため、様々な取り組みが行われているが、なお課題が多い。子育ては、本人や家族のみならず、居住地域の影響を強く受けていると考えられ、新たな視点で子育てや養育環境を考える必要がある。

人や社会とのつながりを指すソーシャルキャピタルという概念がある。パットナムによると、「社会の効率性を改善できる、信頼・規範・ネットワークといった社会組織の特徴」である。近年の報告では、ソーシャルキャピタルの良好な地域では、より主観的健康感が高い(藤澤ら、2011)など健康と関連があることが分かっている。

地域のソーシャルキャピタルの醸成や活用が非常に重要であることは、厚労省の「地域保健対策の推進に関する基本的な指針」の改正(2012年)や「地域における保健師の保健活動に関する指針」(2013年)においても示されており、多様化・高度化する住民ニーズに即した取り組みが推進されている。

しかしながら、公衆衛生、地域保健分野でのソーシャルキャピタルに関する研究は、主として高齢者や介護予防の領域で行われており、母子関係に関しては圧倒的に少ない。「子育ての社会化」についての研究(山口ら、2013)や、児童虐待に関し民生・児童委員等を調査対象としたものがある程度であり、実際に子育て中の母親を対象とした、子育てとソーシャルキャピタルの関連をみたものはほとんどなく、十分な知見が得られていない。

そこで児童虐待に影響しうる子育て中の母親の子育て観と、地域のソーシャルキャピタルとの関係を探査し、新たな視点で地域特性を踏まえた子育て支援の方策を検討する必要があると考えた。

2. 研究の目的

子育て中の母親の子育て観や子育て状況と、地域のソーシャルキャピタルとの関係を探査し、地域特性を踏まえた子育て支援の方策を検討することを目的とする。

3. 研究の方法

ソーシャルキャピタルの差が予想される複数地域における乳幼児をもつ母親を対象とした無記名自記式質問紙調査を実施し、地域間の比較検討を行なう。また、ソーシャルキャピタルが豊かな国外の情報収集を併せて行ない検討する。

(1)対象地域および対象者

対象地域は先行調査、統計資料等からソーシャルキャピタルの差が予想される地域として石川県、島根県、東京23区を選定した。高ソーシャルキャピタル地域として島根県、低ソーシャルキャピタル地域として23区、その中間地として石川県を位置づけた。

対象者は対象地域の認可保育園、幼稚園、

こども園に通園している2~3歳児クラスの児をもつ母親である。

(2)調査方法

研究同意の得られた各園を通じて対象者に無記名自記式質問紙を配布し、同封した返信用封筒にて研究者宛て回収した。

(3)調査期間

2016年9月から2017年3月

(4)調査項目

基本属性

母親の年齢など母親に関すること、家庭の状況に関すること、調査該当となった子どもに関することを尋ねた。

ソーシャルキャピタル項目

信頼(「ご近所の人々はお互いに信頼し合っていると思いますか」)、助け合い(「ご近所の人々はお互いに助け合っていると思いますか」)、子どもを通じてまたは母親自身の組織所属の有無、地縁組織の参加の有無を尋ねた。

また、子育て期のソーシャルキャピタル指標の検討のため、友人、ママ友、近所と人等とのおさぎりのやりとりについて尋ねた。おさぎりをもらう(「普段、子育て用品や子どもの衣類等おさぎりを人からもらうことはありますか?」)、おさぎりをあげる(「普段、子育て用品や子どもの衣類等おさぎりを人にさしあげることはありますか?」)を尋ねた。

子育て観

子育て観尺度(CPS-M97)(内藤ら、1998)の下位尺度「子育て満足感・生きがい感」と「子育て負担感・不安感」を尋ねた。各6項目の合計点を算出し、得点範囲は6点から30点である。得点が高いほど、それぞれの感情が高いことを示す。

(5)分析方法

ソーシャルキャピタル項目のうち、信頼と助け合いは「そう思う」「どちらかというそう思う」「どちらともいえない」「どちらかというそう思わない」「そう思わない」5件法にて尋ね、「そう思う」「どちらかというそう思う」を信頼あり、助け合いありとした。またおさぎりをもらう・あげるは「よくもらう・あげる」「たまにもらう・あげる」「あまりもらわない・あげない」「ほとんどもらわない・あげない」の4件法で尋ね、「よく~」「たまに~」をもらう群・あげる群とした。

変数ごとに記述統計量を算出し、単変量解析をした後、ソーシャルキャピタル項目を目的変数、地域を説明変数とし、母親の年齢、学歴、経済状況、子どもの数、家族形態、住居形態、居住年数を調整変数としたロジスティック回帰分析を行い、地域によるソーシャルキャピタルの高さを検討した。また子育て満足感・生きがい感を中央値で2値化し、地

域別に子育て満足感・生きがい感を目的変数、ソーシャルキャピタル項目を説明変数、調整変数として前述の母親の年齢等に母親の健康状態を加えロジスティック回帰分析を行った。子育て期のソーシャルキャピタル指標としてのおさがりのやりとりについては、その他のソーシャルキャピタル項目とマンホイットニーのU検定、カイ2乗検定にて検討した。有意水準は5%とした。

(6)倫理的配慮

研究者所属機関の倫理委員会の承認を得て実施した。調査対象施設には、口頭および文書にて研究協力依頼を行い、同意を得た。調査対象者には協力依頼文書を質問紙に同封し、質問紙の回収をもって同意を得たとみなした。

4. 研究成果

(1)調査の回収状況および対象の概要

石川県では1町にある13施設から同意が得られ、451通を配布したうち230通を回収した(回収率51.0%)。このうち有効回答は226通だった(有効回答率50.1%)

島根県では1市内1地域にある12施設から同意が得られ、405通配布したうち204通を回収した(回収率50.4%)。このうち有効回答は201通だった(有効回答率49.6%)

23区では隣接し合う4区内にある11施設から同意が得られ、388通を配布したうち190通を回収した(回収率49.0%)。このうち有効回答は182通だった(有効回答率46.9%)

地域別の対象者の概要を以下に示す。

| | n(%) | | |
|---------------|---------------|---------------|---------------|
| | 石川県 | 島根県 | 23区 |
| 母親の平均年齢 | 33.3 ±7.3 | 34.8 ±6.1 | 37.4 ±6.6 |
| 仕事あり | 192 (85.0) | 178 (89.0) | 150 (82.4) |
| 経済状況 ゆとりあり | 51 (22.8) | 45 (22.4) | 76 (42.0) |
| 子の数 1人 | 53 (23.5) | 29 (14.5) | 60 (33.0) |
| 核家族 | 171 (75.7) | 123 (61.2) | 165 (90.7) |
| 持ち家あり | 197 (87.2) | 155 (77.1) | 113 (62.1) |

無回答は除く

(2)ソーシャルキャピタル項目

地域別の結果を以下に示す。有意な地域差があったのは、助け合いと地縁組織の参加であった。双方とも島根県、石川県、23区の順に高かった。また、おさがりをもらうとおさがりをあげるも有意な地域差がみられた。

ロジスティック回帰分析により、対象の属性を調整して、3地域のソーシャルキャピタルの高さを比較した。23区を参照群とし、ソーシャルキャピタル項目で有意に高かったのは、助け合いで島根県がオッズ比1.66(95%

信頼区間:1.03-2.67)、地縁組織の参加で石川県がオッズ比2.08(95%信頼区間:1.07-4.04)、島根県がオッズ比13.72(95%信頼区間:7.09-26.58)であった。

| | n(%) | | |
|-----------------|---------------|---------------|---------------|
| | 石川県 | 島根県 | 23区 |
| 信頼あり | 125 (55.3) | 104 (51.7) | 98 (54.4) |
| 助け合いあり | 110 (48.9) | 109 (54.5) | 66 (36.7) |
| 子を通じた組 織所属あり | 77 (34.1) | 71 (35.3) | 61 (33.7) |
| 母親自身の組 織所属あり | 18 (8.0) | 22 (11.0) | 27 (14.8) |
| 地縁組織の 参加あり | 48 (21.6) | 119 (59.5) | 18 (9.9) |
| おさがりを もらう | 165 (73.0) | 155 (77.1) | 119 (65.4) |
| おさがりを あげる | 146 (64.6) | 123 (61.2) | 134 (74.0) |

無回答は除く

(3)子育て観

子育て満足感・生きがい感は正規性がなかったため中央値を示す。子育て負担感・不安感の平均値を以下に示す。子育て負担感・不安感の本研究での地域別のクロンバックの係数は0.785~0.697だった。3地域で比較したところ、どちらも有意な差はなかった。

| | 石川県 | 島根県 | 23区 |
|----------------------------|--------------|--------------|--------------|
| 子育て満足感・生きがい感 ¹⁾ | 26.0 (4) | 27.0 (5) | 27.0 (5) |
| 子育て負担感・不安感 ²⁾ | 16.3 ±4.2 | 16.0 ±4.3 | 16.0 ±5.0 |

1)中央値(四分位範囲) 2)平均値(標準偏差)
無回答は除く

(4)ソーシャルキャピタル項目と子育て観との関連

ソーシャルキャピタル項目と子育て満足感・生きがい感との関連を地域別にみて有意な関連があったのは、石川県では信頼なし群に比べて信頼あり群は子育て満足感・生きがい感が高くオッズ比3.34(95%信頼区間:1.12-9.91)、島根県でも同様に信頼なし群に比べて信頼あり群が高くオッズ比3.11(95%信頼区間:1.05-9.24)だった。さらに島根県では地縁組織に参加していることもオッズ比2.06(95%信頼区間:1.07-3.97)で有意に関連していた。23区では子育て満足感・生きがい感と有意に関連するソーシャルキャピタル項目はなかった。

(5)子育て期のソーシャルキャピタル指標としてのおさがりのやりとりの検討

おさがりをもらうについて、石川県では、おさがりをもらう群はもらわない群と比べ、信頼が有意に高く、また子どもを通じた組織

の所属が有意に多かった。島根県では、おさがりをもらう群はもらわない群と比べ、信頼と助け合いが有意に高かった。23区では、おさがりをもらう群はもらわない群と比べ、子どもを通じた組織の所属が有意に多かった。

おさがりをあげるについて、石川県ではおさがりをあげる群はあげない群と比べ、信頼と有意に高かった。島根県では、おさがりをあげる群はあげない群と比べ子どもを通じた組織の所属と地縁組織の参加が有意に多かった。23区では有意な差をみとめる項目はなかった。

(6) ソーシャルキャピタルの豊かな北欧に関する情報収集結果

デンマークの子育て事情を情報収集した。民主主義の歴史や文化、社会システム等を背景に個人の価値観や幸福感は日本とは大きく異なり、またソーシャルキャピタルの豊かさは国レベルであることから日本の地域特性と直結するようなことは見出せなかったが、女性が働くことが当たり前の社会の中で、幼少期から個を尊重し、自主性や自己決定、自己肯定感が育まれるように家庭や保育施設で子どもと関わり、対話が重視されていることが分かった。また自治体の保健師が出産後の家庭に複数回家庭訪問をしたり、母親同士を集めてグループ化するなどの活動を行っていることが分かった。

(7) 考察およびまとめ

本研究で調査したソーシャルキャピタル項目のうち、石川県、島根県、23区で有意な地域差があったのは助け合いと地縁組織の参加の2項目で、島根県、石川県、23区の順に高かった。平成14年内閣府調査における都道府県別ソーシャルキャピタル指数の比較と同じ順であった。

地域のソーシャルキャピタルの高低を踏まえ、母親の子育て満足感・生きがい感（以下、子育ての肯定的感情）とソーシャルキャピタルとの関連を検討すると、3地域の中でソーシャルキャピタルが高い島根県では、子育ての肯定的感情は信頼と地縁組織の参加が有意に関連していた。3地域の中で中程度の石川県では、子育ての肯定的感情は信頼と有意に関連していた。3地域の中で低い23区では、子育ての肯定的感情はソーシャルキャピタルのどの項目も関連していなかった。すなわち、地域のソーシャルキャピタルの高低により、母親の子育ての肯定的感情の関連要因は異なっていた。したがって地域のソーシャルキャピタルの高低により、保健師等専門職による子育ての支援方法が異なることが考えられた。

子ども服や子育て用品のおさがりはかつてほどあまり聞かれないが、おさがりのやりとりは子育て世代のつながりを保ち、互助とも考えられ、子育て期のソーシャルキャピタル指標としてのおさがりのやりとりについ

て検討した。おさがりをもらうことも、おさがりをあげることも、3地域全てにおいて有意な関連のあったソーシャルキャピタルの項目はなかった。しかし、おさがりをもらうことでは、ソーシャルキャピタルが高い島根県では信頼と助け合い、中程度の石川県では信頼とが関連し、低い23区ではどちらも関連がなかったことから、おさがりをもらうことは認知的ソーシャルキャピタルと地域のソーシャルキャピタルの程度が何らかの関係している可能性は否定できないと考える。

個人対個人のおさがりのやりとりは、1家庭あたりの子どもの数や、バザーなどの地域行事の有無、相互扶助の歴史文化の背景などが影響していることが考えられる。これらを考慮しながら、今後さらに検討を重ねていく必要がある。

5. 主な発表論文等

〔研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線〕

〔雑誌論文〕(計 0件)

〔学会発表〕(計 2件)

金子紀子、阿川啓子、石垣和子、子育て中の母親の子育ての肯定的感情とソーシャルキャピタルとの関連 - 3地域の比較 -、第76回日本公衆衛生学会総会、2017年10月予定、鹿児島

金子紀子、石垣和子、子育て中の母親の子育て観と「おさがり」文化との関連、文化看護学会第9回学術集会、2017年3月、沖縄

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

取得状況(計 0件)

〔その他〕

なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

金子 紀子 (KANeko, Noriko)

石川県立看護大学・看護学部・助教

研究者番号：30438171